

日本アンダーライティング協会

第1回海外事情研究会を開催

次世代の新契約プロセスで講演

日本アンダーライティング協会は8月21日、ミュンヘン再保険日本支店で第1回海外事情研究会を開催した。ミュンヘン再保険シンガポール支店ヘッドオブプロダクトのニック・ファン・デア・ネスト氏が「トランスフォーミング・アンダーライティング」をテーマに講演を行い、当日は16人が参加した。



ネスト氏

最初に、日本アンダーライティング協会、講習委員長の八束滋理事が、海外事情研究会開催の趣旨について「今般、生命保険会社の海外進出や海

外に、海外のアンダーライティングや商品に関するアを取り入れた新商品の導入等、国際化が加速してきており、アンダーライタ

技術を活用することで、申込者に関するさまざまなデータのなかから、これまで認知されていなかった新しいリスクを認識できるようなったり、これまで活用していなかったデータを活用できるようになったり、より効果的に既存のデータを活用できるようになる。例えば、見込み客に関するさまざまなデータを分析することで、その属性を精緻化し、それにより、誰に、どのような商品を提案するのが最も効果的かを判断できるようになり、かつ、最も効果的なアンダーライティング・プロセスについても特定することが可能。さらに、これまで告知等で取

外的アイデア、マーケティングや商品に関するトピックについて講演いただき、会員の皆さまに、日本にいながらにして、海外の事情に触れる機会を提供する目的で、『海外事情研究会』を企画した」と説明した。

その後、ミュンヘン再保険シンガポール支店ヘッドオブプロダクトのニック・ファン・デア・ネスト氏が、最新のテクノロジーや、ビッグデータを活用した、次世代の新契約プロセスの可能性について解説した。新しい

得していた情報を、別の情報で代替・補充することが可能になるだろうとした。

外国での例としては、身長、体重から計算するBMIについて、顔写真の分析から予測値を算出するプラットフォームを提供している会社がある。他にも、ウェアラブル端末やスマートフォンから、一日当たりの歩数や、居住地、職場への通勤経路、睡眠時間や、交通事故に遭う可能性についても分析することが可能であることを説明した。また、健康増進プログラムで活用されている「一日当たりの歩数」の死亡率予測での有用性について、グラフを用いて解説した。ただ、一日当たりの歩数やソーシャルメディアから得られるデータを実際のアンダーライティングに活用するためには、プライバシー

の保護や規制上の課題について、整理する必要がある点も付け加えた。

資料も講義も全て英語という初めての試みであったが、参加者からは「各社これから力を入れるところだと思っので、海外事情が分かったのは良かった」「まさに今話題のインシュアテックについてだったので大変興味深かった」というコメントがあった一方で、「全て英語によるセミナーは初体験だったので、厳しいものがあった」といったコメントも寄せられた。

最後に、八束理事は「英語だけの会ということで、さまざまな声が寄せられたが、今後も教育委員会のメンバーや各再保険会社の協力を得ながら、このような機会を設けていきたい」と抱負を述べた。